

留 学 報 告 書

記入日:2019年1月21日

所属学部／研究科・学科／専攻	政治経済学部/政治学科
留学先国	マレーシア
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	和文: マラヤ大学 現地言語: Universiti Malaya
留学期間	2018年9月～2019年1月
留学した時の学年	3年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	年生(留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	<input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属しなかった。
帰国年月日	2019年1月18日
明治大学卒業予定年	2020年3月
留学先大学について	
形態	<input checked="" type="checkbox"/> 国立 <input type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input checked="" type="checkbox"/> その他
学年暦	1 学期:9月上旬～1月下旬 2 学期:2月下旬～6月下旬 3 学期: (記入例/1学期:4月上旬～7月下旬, 2学期:9月中旬～2月上旬)
学生数	約3万人
創立年	1905年

留学費用項目	現地通貨 (マレーシアリンギット)	円	備考
授業料	0	0円	交換留学のためなし
宿舍費	3150	94500円	最初の1ヶ月は月50リンギットでしたが、途中から一人部屋に移ったため900リンギットでした。
食費	2500	75000円	ローカルな食堂で食事すれば食費は抑えられます。
図書費	50	1500円	教科書は購入せず、プリントしていました。
学用品費	0	0円	
教養娯楽費	0	0円	
被服費	100	3000円	
医療費	300	9000円	持病で一度病院にかかったため、保険適応になりませんでした。
保険費		62140円	形態:大学斡旋の東京海上日動の保険を購入しました。
渡航旅費		48000円	Air Asiaを利用しました。
雑費	300	9000円	生活に必要なものを買いました。
その他	800	24000円	交通費(Grabを多く利用していました。)
その他	4000	120000円	旅費
その他	300	9000円	携帯代(月に60リンギット程度トッピングしていました。)
合計	11500	345000円	

渡航関連

渡航経路:東京(羽田)~クアラルンプール

渡航費用

チケットの種類	オープンチケット
往路	25000 円
復路	23000 円
合計	48000 円

渡航に際して利用した旅行会社やガイドブックを教えてください。

Air Aia のアプリで予約しました。

滞在形態関連

1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舎など)

オフキャンパス寮

2)部屋の形態

個室 OR 相部屋(同居人数人)

3)住居を探した方法:

大学内に寮はありますが、環境が整っていないことを事前に聞いていたため、大学のサイトからオフキャンパスの寮を探し、アプライしました。

4)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

オフキャンパス寮は、二人部屋が二つと、共有キッチン、バスルーム、シェアスペースという家のような設計です。ハウスマイトは中国人で、とても毎日楽しく過ごすことができました。また一度コンドミニウムに移ることを考えたこともありましたが、マレーシアの不動産はエージェントによっては連絡が途絶えるなどかなり適当なので、しっかりと見極める必要があります。学内の寮は友達がたくさんできるため、環境に適應できそうなら住んでみても良いかもしれません。

現地情報

1)現地で病院にかかったことはありますか?大学内の医務室/診療所や付属病院等で医療サービスを受けることは可能でしたか?

利用する機会が無かった

利用した:日系の病院にお世話になりました。大学内の病院は待ち時間が長く、英語が通じにくいと聞いていたため利用しませんでした。

2)学内外で問題があったときには誰に相談しましたか。留学先大学に相談窓口はありましたか。

学内の友達、親。ISC という留学生をサポートする窓口がありました。

3)現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか?その際どのように対処しましたか?

外務省からの危険情報をこまめにチェックするようにしていました。また夜遅くは一人で歩かないことを徹底していました。

4)パソコン、携帯電話、インターネット(接続について)現地での利用はいかがでしたか。

(例:寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

寮の Wi-Fi は接続がかなり不安定でした。現地で購入した格安のSIMカードを使っていたため、生活するうえで困ることはありませんでした。

5)現地での資金調達はどのように行いましたか?(例:現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

キャッシュパスポートを事前に作り、ATM から現地通貨を引き出していました。

6)現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。

クアラルンプールは、ダイソーなど日系企業が多く進出しているため必要なものは大体調達できます。常備薬を忘れずに持っていくことは大切です。

7)【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。(例:渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った、渡航前に留学先大学から指示があった、渡航後のオリエンテーションで支払いに関する案内があった等)

卒業後の進路について

1) 進路
<input type="checkbox"/> 就職 <input type="checkbox"/> 進学 <input checked="" type="checkbox"/> 未定 <input type="checkbox"/> その他:
2)進路決定の際に参考にした資料、図書、機関など
3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、或は入社すると決定した企業の名前のみでも構いません) ※1～3年生で、就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。
在日外国人支援、教育
4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。 (例:留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。) ※1～3年生で、就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。
留学前は漠然と海外で働くことに憧れを持っていましたが、実際に海外に長期滞在し大変な面も経験したため、日本で働く外国人を支援する分野の職種を探したいと思うようになりました。またマレーシアという多民族国家で生活し、社会のハーモニーを作るうえで、教育がどれほど大切かを実感しました。そのため、教育分野、特にグローバル教育に関わる分野に関わりたいです。
5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。
6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。
7) その他を選択した方は、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)

1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
11 単位	<input checked="" type="checkbox"/> 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Welfare System	福祉政策
科目設置学部・研究科	Arts and Social Sciences・Department of social administration
履修期間	2018年9月～2019年1月
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義、チュートリアル(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に180分が1回
担当教授	Dr. Siti Hajar Binti Abu Bakar Ah
授業内容	福祉政策の基礎、セオリーを学ぶ授業。
試験・課題など	内容は平易で、難しくない。前半は課題が全くなかったが、後半から国ごとに毎週グループプレゼンがあった。日本人は私を含め二人だったため、負担は大きかった。また中間テストが二度実施された。
感想を自由記入	1年生向けの授業で、レベルは決して高くない。ローカルが多い授業だったため、多くの現地学生と関わることができた。教授は日によってマレー語を半分ほど使うことがあり、わからない部分もあった。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Ethnicity, Identity and Politics of Minorities in Southeast Asia	東南アジアのエスニシティ、アイデンティティ、マイノリティの政治
科目設置学部・研究科	Arts and Social Sciences ・ Department of Southeast Asian Studies
履修期間	2018年9月～2019年1月
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義、チュートリアル(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に180分が1回
担当教授	Dr. Mala
授業内容	東南アジアにおけるマイノリティについて、歴史、政治、課題など様々なことを学ぶ。
試験・課題など	チュートリアルはグループプレゼンで、テーマに沿ってプレゼンを2回行った。12月にほぼ同時期に出された二つのエッセイは難易度が高く、非常に時間がかかった。
感想を自由記入	一番学ぶことが多く、毎週楽しみにしていた授業。教授はプレゼンについて具体的かつ厳しめなアドバイスをくれるため、しっかり準備する必要がある。評判の良い教授で抽選に最初落ちたが、どうしても受講したく学部へ何度か通い交渉した。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Sustainable Development	持続可能な開発
科目設置学部・研究科	Arts and Social Sciences ・ Department of Anthropology and Sociology
履修期間	2018年9月～2019年1月
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義、チュートリアル(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に180分が1回
担当教授	Dr. Welyne Jeffrey Jehom
授業内容	Sustainable Development について学ぶ授業だと思っていたが、教授はマレーシアの先住民であるオランアスリについての講義しか行わなかった。直前の休講が多く、実際に教授が授業したのは4回程度。
試験・課題など	Sustainable Development について自由テーマで、グループごとにフィールドトリップを行い、グループプレゼン、3000字のレポートを提出する。
感想を自由記入	正直受講を勧めない授業。教授は自分の都合で休講にすることが頻繁にあり、教室に行き授業がないことを知ることが何度もあった。また、期末試験では具体的な出題範囲の説明がなく、全く習っていない範囲が出題された。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Basic Self-defence	自己防衛基礎
科目設置学部・研究科	Center for the Initiation of Talent and Industrial Training
履修期間	2018年9月～2019年1月
単位数	2
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	実技(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に120分が1回
担当教授	Dr. Tee Cheng Sum
授業内容	合気道の基礎を実践で学ぶ授業。
試験・課題など	5つの技を録画しDVDで提出した。中学校へ合気道を教えに行くボランティアがあり、とても良い経験になった。
感想を自由記入	様々な学部から自由に受講できる授業のため、多くの現地学生と友達になることができた。先生は優しいが、時間に厳しい。

留学に関するタイムチャート

2017年 1月～3月	ベトナム短期留学
4月～7月	IEITS 勉強、受験
8月～9月	
10月～12月	協定校出願、面接
2018年 1月～3月	
4月～7月	留学準備、語学・専門知識の勉強
8月～9月	渡航
10月～12月	ミッドタームブレイク
2019年 1月～3月	期末テスト
4月～7月	
8月～9月	
10月～12月	

留学体験記

留学しようと決めた理由	大学入学前より漠然と海外への憧れがあり、1 年次より学部で提供されている英語で行われている授業を受講し、勉強に積極的に取り組んできました。1 年春休みのベトナム留学がきっかけで、東南アジアの政治について興味がわき、東南アジアへの留学を決めました。また、専門知識をしっかり身に付けてから留学したかったため、2 年次ではなく 3 年次の留学を選択しました。最終的に ASEAN の国々の中でも、多民族国家で発展がめざましいマレーシアを選びました。
留学のためにした準備、しておけば良かったと思う準備	語学に関しては、リーディングやライティングなどアカデミックな学習は準備できていましたが、日常会話のボキャブラリーが足りず困ることがありました。4 技能バランスよく学習することが大切だと思います。また、しておけば良かったと思うことは日本文化や政治について知識を貯め、説明できるようにしておくことです。漠然とわかっている、なぜ？と聞かれると説明が難しいことがよくあります。また、マレーシアでは宗教の存在が大きいため、日本人の宗教観について話すことが多くありました。今は、日本文化についての文献なども多く出されているので、事前にしっかり準備しておくべきだったと思います。
この留学先を選んだ理由	東南アジアへの留学は決めていましたが、留学先についてはかなり悩みました。最終的に、日本とは全くことなる環境に行きたいと思い多民族国家であるマレーシアを選びました。またマラヤ大学はクアラルンプールという首都にあり生活水準が大きく落ちないと思ったこと、マレーシアの最高学府であるため質の高い教育を受けることができると思ったことが理由です。留学の目的に合わせ、具体的に留学先を絞っていくことが大切だと思います、また事前の情報収集はとても大切です。
大学・学生の雰囲気	森林公園のような大きな大学で、バスや自転車がないと移動がとても大変です。またマレーシアはマレー系の国民を優遇するアファーマティブポリシーを採っているため、国立であるマラヤ大学はマレー系の学生が目立ちます。寮内のカフェはマレー料理が中心で辛くて脂っこいため日本人は合わないと感じている人が多かったです。留学生が多く多様性を体現している大学です。しかし学生のレベルは授業、学部によりかなり異なり、しっかり吟味することが大切です。
寮の雰囲気	オフキャンパスの寮では、集まる場所が屋外に一か所あるのみで、あまり積極的な交流は行われていませんでした。また大学院生が多い印象です。オンキャンパスの寮は、お湯が出るシャワーが 1 台しかない、プライベートの時間が少ない、トイレが汚いなどの問題はあるようでしたが、多くの留学生が暮らしているため、友達を作る場所としては最適だと思います。私も、オフキャンパスに住んでいましたが友達に会うため、オンキャンパスの寮に行くことがしばしばありました。
交友関係	たくさんの友達に恵まれ、毎日充実していました。留学生は、タイ、インドネシア、ブルネイ、中国、韓国などアジアの国々から来ている人が多く、英語の間違いを気にすることなく積極的に交流を楽しみました。ローカルの学生より、留学同士で旅行をしたり交流したりする機会が多かったように思います。しかし学内で行われるイベントに積極的に参加し、多くのローカルとも交流を持つことができました。親友と呼べるような外国人の友達もでき、言葉の壁を越えた交友関係を築くことができたとと思います。
困ったこと、大変だったこと	マレーシア人は一般的に寛容と言われていますが、ルーズな一面もあります。例えば時間の感覚が日本人とは全く違うため、当たり前のように手続きなどで何時間も待たされます。最初はフラストレーションを感じていました。特にビザの手続き、履修登録期間は毎日大変でした。また大学の敷地は広大で、暑い中歩くことは厳しいです。しかし、バスの時刻表は気まぐれに変わり、あまり機能していません。grab などを利用することもありました。このような価値観の違い、交通機関の違いに慣れるまで時間がかかりました。
学習内容・勉強について	専攻である政治学から離れ、興味のある福祉分野、マイノリティ、多様性に関わる学習を中心に行いました。授業のレベルは学年、学部によって大きく違います。授業の質に失望することもありましたが、自分で学び取ろうとする姿勢が大切であることを学びました。またマイノリティについての授業は政治と大きく関わっており、自分の専攻と関わりがありました。難易度が高く予習、復習が欠かせませんでした。またどの授業もグループプレゼンがあったため、国籍の異なる人とグループ作業を進めることの難しさややりがいを感じました。教授によっては英語のアクセントに癖があったり、マレー語を使ったりする人もいたので、ローカルの友達に多く助けられました。

課題・試験について	ミッドタームブレイクまでは課題やプレゼンが全くなく、とても時間を持て余していました。しかし 11 月後半より、急にレポート、プレゼンなどの課題が増え一気に忙しくなりました。このようなスケジュールはマラヤ大学の伝統であることを後に知りました。しかし、一つ一つ課題をこなしていけば問題はありません。試験はすべて同じ形式でエッセイになります。出題傾向や範囲を事前に説明された授業は万全に準備できましたが、授業がほぼ行われず説明もなかったものは、試験に悔しさが残りました。
大学外の活動について	マレーシア国内、ASEAN 諸国へ旅行に行きました。マレーシアは地方によって全然雰囲気が異なるので、地域のことを知るという点でとても有意義な時間になりました。また動物保護施設にボランティアに行きました。時間のあつた週末は、主に友達と遊びフレッシュすることを心がけていました。
留学を志す人へ	留学の目的をはっきりさせ、留学をゴールにしないことが大切です。また東南アジアへの留学は予想外のことが多く起きます。準備を万全にした後は、心配し過ぎずゆったりと寛容になることも時には必要です。遊びに誘われたら断らないということも大切ですが、自分の時間をしっかり持ち、自分を大切にすることも必要です。また、語学はしっかり勉強しておくことが重要です。どの国籍の人とも共通語は英語で、留学先で焦っても遅いです。

一週間のスケジュール(例)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前中	授業	自習		授業	自由時間	自由時間	自由時間
	授業	自習		自習			
午後	自習	授業	授業	自習			
	自習	授業	授業	自習			
夕刻							
夜							



